

酸性雨の総合報告書 環境省



環境省の酸性雨対策検討会により1983年～2000年度に実施した第1次～第4次の酸性雨対策調査と、2001年度、2002年度に実施した酸性雨調査を合わせた20年間の酸性雨調査の総合報告書が6月25日までにまとめられました。

調査のうち降雨を調べた結果によると、20年間の降水pHの平均値は4.49(伊自良湖)～5.85(宇部)の範囲内にあり、全平均値は4.77となっています。日本ではこれまでに植物の急性被害が引き起こされる可能性のあるpH3未満の強酸性雨は観測されていませんが、2000年から2002年にかけて全国23地点で実施した調査の中では、試料の約5%がpH4未満と判定される等、依然として欧米並みの酸性雨の降雨が観測されています。

また、本州中北部日本海側と山陰では硫酸イオンや硝酸イオンの沈着量が冬季に増大する傾向が継続していて、大陸から季節風に乗って飛来した硫黄酸化物、窒素酸化物が流入していることが示唆されています。

生態系についても現時点では被害は顕在化していないとされていますが、原因不明のアカマツなどの衰退木の発生や、上記に挙げた伊自良湖の流入河川、周辺土壌でのpH低下が観測されるなど酸性雨の影響が疑われる事例が報告されています。

環境省では今後も長期的な視野でモニタリングを継続し、状況を把握していくとともに、東アジア酸性雨モニタリングネットワーク(EANET)を通じて東アジア地域諸国とともにモニタリングや対策立案面で協力を進めていきたい考えです。

資料:2004年6月25日付 EIC ネット

生活環境箇所 清水 圭介

事業内容

- | | |
|----------------------|-----------------------|
| 1 環境管理に伴う調査・測定・化学分析 | 5 土壌汚染対策法に基づく土壌汚染状況調査 |
| 2 ダイオキシン類に係る濃度計量証明 | 6 労働衛生管理に伴う作業環境測定 |
| 3 ビル管理に伴う水質検査・空気環境測定 | 7 トータルサニテーション管理 |
| 4 水道法第20条に基づく水質検査 | 8 委託試験・研究・開発 |

